

令和 3 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1690800162
法人名	株式会社 ニチイ学館
事業所名	ニチイケアセンター石丸グループホーム ニチイのほほえみ
所在地	富山県砺波市石丸401
自己評価作成日	2021年3月5日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページ等で閲覧してください。

基本情報リンク先	www.nichiiweb.jp
----------	------------------

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人 富山県介護福祉士会		
所在地	939-8084 富山県富山市西中野町1丁目1-18 オフィス西中野ビル1階		
訪問調査日	令和3年3月24日	評価結果市町村受理日	令和3年5月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

毎月、四季を感じていただけるようなメニューを考えたり、壁の貼り絵、行事を行っています。何よりも、笑顔で対応、寄り添う気持ちを大切に、という想いで、日々の業務を行っています。出来る事の継続や、まだ出来る事はないかと、利用者と共に、常に模索することに力を入れています。また、安心・安全に毎日を過ごして頂く為に、毎週、訪問看護師による健康管理を行い、24時間医療的なアドバイスを受けられます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は、全国展開している会社が運営している介護事業部門として介護サービスを提供している。職員は日頃から利用者との関わりを重要と考え、利用者との信頼関係を築く為に職員同士チームワークを合わせ利用者に対して笑顔が溢れる優しいケアの実践に努めている。医療面では、現在コロナ禍の影響で家族が薬を取りに行くことが多くなっているが、家族と一緒に受診する際はバイタル一覧表を渡し、適切な医療が受けられるよう工夫している。また、入浴面の特徴としては、日曜日を除いた曜日にいつでも入浴できる体制にあり、利用者毎に個浴のお湯を張り替えており、清潔感や感染症防止に努めている。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します。

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

1 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員みんなで作成した理念「和みの空間、優しい笑顔あふれるほほえみ」は、いつでも、職員の目に触れやすく、確認できるように玄関に掲示してある。サービス提供状況が理念に基づいているかは、お互い気付いた時に話し合いをし、笑顔あふれる思いやりの気持ちを忘れないように努めている。	開設時の職員で話し合い作成した理念『和みの空間、優しい笑顔あふれるほほえみ』を基に、日々の生活の中で理念に基づいた笑顔あるケアを職員一同で目指している。また、ユニットごとに毎月、月末に夜勤に入った職員が目標を作成し、理念に沿ったケアの実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所は自治会に加入している。近隣から施設内に掲示物を依頼されることもある。	以前は地域の公民館の体操に出掛けたり、歌・踊り等のボランティアや実習を受け入れたりしていたが、今年度はコロナ禍の為交流できていない。コロナ禍の中でも福野高校福祉科から手作りの飛び出す絵本の提供があり、交流継続に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在、その機会はあまりない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍で実施できていない。	今年度の運営推進会議は、コロナ禍のため実施できていない。	配布する請求書と合わせて、運営推進会議で報告していた内容(利用状況や活動報告等)を家族に報告したり、地域の方に配布したりする等、コロナ禍の中でも事業所の情報を発信できるような取り組みに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	コロナ禍で、介護相談員の訪問や運営推進会議がなくなり、あまり対応できていない。	月2・3回、市の窓口に出向き、パンフレットや広報の配布、空き状況の相談等を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設置し、委員会活動は定期開催し、全員の認識を高めている。身体拘束に該当するか等についても職員間で検討を重ねている。常に利用者に声をかけ、寄り添うケアの実践に努めている。各フロアの出入口は施錠されていることが多く、認識を新たにしていく必要がある。	『身体拘束適正化のための指針』を整備し、年2回研修を行っている。また、毎月行われるミーティングの中で身体拘束廃止委員会の担当者が実施報告を行い、職員間で情報共有している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年2回、事業所内で研修を行ない、虐待の理解、防止に努めている。疑わしい出来事があれば、職員間で意見交換をし、必要時、上司、支店へ報告している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	あまり実施できていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明の中で、納得されているか、何度も確認し、契約を行なっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者は、利用者や家族等の意見、要望に添うようにしている。顧客満足度調査が毎年実施され、内容は本部に集められ、集計結果が送られてくる。その結果を職員のミーティングで話し合っている。	コロナ禍ではあるが、電話や受診時に家族から伺った意見や要望を介護日誌に記載し、申し送り時等で職員間で共有し反映に努めている。メッセージアプリでのオンライン面会の実施や、請求書と一緒に普段の生活の写真を送付することで家族から感謝の声が聞かれた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング等で、管理者から説明を受け、スタッフは意見を述べている。 管理者は、機会あるごとに職員の意見を聞いたり、適宜面接を行ない、それを反映させた行動を行なっている。	管理者は職員と相談室での個人面談を実施しており、利用者への関わりのアドバイスや職員からの意見や要望等を聞く機会を設けている。また、日頃から職員が管理者に相談し合える体制であり、意見を反映した実践が出来るよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が希望する労働時間、休日などを把握し、シフト作成している。 非常勤職員は、キャリアアップの制度がある。 全介護職員は、勤続年数に応じた手当がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月、事業所内での研修を計画的に実施している。 難しい介護方法については、介護福祉士有資格者の指導を受けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	行政主催の研修会やグループワークにできるだけ出席し、同業他社の取り組みを知るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時には、生活歴を聞き、本人の精神的、感情的状態に配慮しながら、本人を理解し、気持ちに寄り添うよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居しなければならなかった経緯を理解し、その思いに応えることができるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族と相談し、本人が一番納得される入居の説明を統一した形で、お伝えするようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	声かけや一緒にアクティビティを行なうなど、時間を共有するようにしている。 夜勤時など「ご苦労様」と声をかけて頂いたり、利用者から他の方の介護方法のアドバイス(スプーンより箸の方が良いようだ等)を頂いたりすることがある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の申し出の意図について、理解に努め、一緒に支援していけるように努めている。 コロナ禍で思うような接触はして頂けないが、オンライン面会や家族に写真を送ったり、状況をお伝えすることで、安心して頂けるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で思うように実施できていない。 親戚や知人との年賀状のやり取り等、これまでの関係が継続するように職員がお手伝いしている。	コロナ禍の為外出は制限しているが、以前はジャンボタクシーを使用し外出していた。年賀状や普段の様子を写した写真の送付やオンライン面会を行う等、馴染みの関係を継続する為に努力している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性や支え合いの状況について、職員間で情報共有し、最善の席になるよう工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じ、転所先へ介護サマリー等の情報を提供している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時に、家族から在宅での生活習慣など、暮らしぶりを聴き、支援の方向性として職員間で共有している。 ちょっとした言動や行動からも、本人の意向についての情報があれば、日誌やノート、口頭等で共有に努めている。	センター方式のアセスメントシートを使用し、入所時に家族から本人の思いや希望等の把握に努めている。職員は日々の生活の中の会話や表情から思いを把握し介護記録に記載して情報共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報を讀んだり、会話等により、これまでの生活を理解し、職員間での情報共有に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録、日誌、ノート等により情報を共有し、適切な支援に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の意向や職員間の情報を基に、家族の意見を聴きながら、安心・安全に、居心地良く過ごせるプランに見直している。	半年に1回見直しを行い、状態に変化が見られれば、その都度介護計画を変更している。見直しの時期に合わせて担当者会議を開催し、検討した内容を基にケアプランに反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日誌や申し送りノートを活用し、重要な事や小さな気づきを職員間で共有し、より良い関わりにつなげるよう努めている。また、ヒヤリ・ハットシートの活用により、危険の回避にも努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	業務や日課だけでなく、各利用者の状況に応じて楽しく、居心地良く過ごしてもらえよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の中、難しい状況ではあるが、理容や消防は行なえている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	コロナ禍にて、医師や家族の意向を聞きながら、服薬等必要な医療を受けられるよう支援している。 受診時には毎日のバイタル、排尿・排便回数、食事量を記した一覧表を医療機関に提供し、利用者の体調に異常があれば報告し、情報共有に努めている。	入居時にかかりつけ医の希望を確認し、3分の1の方は月2回ものごと診療所から往診に来てもらっている。現在はコロナ禍で、家族が薬を取りに行くことが多いが、家族との受診時にはバイタル一覧表を渡し、適切な医療を受けられるよう工夫している。また、訪問看護が週1回の来所、24時間オンコール体制で利用者の健康管理と緊急時の対応が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週の訪問看護時に、日頃の様子を伝え相談し、情報を共有している。 不安なことがあれば、24時間オンコールで訪問看護ステーションに相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院されたら、介護サマリーを届け、当施設での生活状況や服薬等について伝えると共に、退院の時期や注意点についての情報収集に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	新規契約時に「重度化した場合における対応の指針」に基づき説明し、同意書を得ている。 なお、本人の状態の変化に伴って主治医や家族と話し合っており、支援方針や具体的な対応等を検討している。	契約時に『重度化した場合における対応の指針』に基に、説明し同意を得ている。重度化した時は病院への転院がほとんどだが、主治医との相談や家族の希望を勘案し可能な限り対応するよう努力している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故トラブル報告書を起票し、都度原因・対策を検討し、全スタッフ間で共有している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練、設備点検は年2回実施している。 エレベーターも設置されているが、緊急時には男性職員が背負って避難できる。また、備蓄品も準備している。職員への緊急伝達や呼び出し等はメッセージアプリを活用して迅速な対応に努めている。	消防の立ち合いの下、年2回(10月・3月)日中を想定した火災訓練を実施。今後地域の防災訓練への参加を予定している。訓練での様子は、広報にて家族や地域の方に情報発信している。	水害・地震発生時のフローは整備してあるが、今後地域の方への案内や水害・地震発生時の自主訓練を行うこと等の取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーの確保についての研修会は定期的 に開催され、職員が再確認する機会としている。 羞恥心に配慮するよう努め、拒否傾向のある時は、 時間をおいて声かけをするなどし、意向に沿うよう努 めている。	年1回、ミーティング内でプライバシーの研修を開 催している。法人独自の『個人情報保護トレーニ ング』というテキストを使用し、職員の理解度 チェックを行い日々の生活の中でのケアに生かせ るよう努力している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思決定を尊重し、利用者自ら行動、発言でき るよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日を どのように過ごしたいか、希望にそって支援し ている	各利用者のペースを尊重し、希望に沿って支援し ている。食事やおやつはなるべく他利用者と一緒 に摂っていただくが、起床・就寝は可能な範囲で、 本人の希望に沿うようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよ うに支援している	清潔保持に努めている。 家族の用意された衣服を着て頂き、季節ごとに衣 替えを行なっている。 好みのある方には、聞きながら一緒に準備してい る。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの 好みや力を活かしながら、利用者と職員が一 緒に準備や食事、片付けをしている	行事食として外注した弁当を1・2階合同で頂く機 会があり、好評である。できる方には、主に茶碗 拭き等手伝っていただいている。	メニューは職員が考え、食材は地元のスーパーから仕 入れている。調理については、できることを職員と一緒 に行い、茶碗拭き等をして頂くこともある。毎月行われ る誕生会でケーキを作ったり、手作りおやつ(ホットケ ーキやたこ焼き等)を作って食べることで、食事を楽しむ 工夫がされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通 じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、 習慣に応じた支援をしている	水分の多目・少な目等を医師の指示により対応し ている。採血結果により、蛋白不足にも注意して いる。 咀嚼・嚥下状況に応じ、刻み食やミキサー食にも 対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食 後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じ た口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きをして頂き、自分では不十分な方 には介助している。義歯の方は毎晩消毒してい る。 必要に応じ、歯科医の往診を依頼し、治療してもら っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、なるべくトイレで排泄できるよう、時間をみて声かけ、誘導し、自立に向けた介護を行なっている。夜間はゆっくりと寝ていただくために、排泄チェック表を参考にし、適時のトイレ誘導や利用者にあった排泄用品で対応している。	布パンツ使用の方が4名、他の方は紙パンツを使用している。排泄チェック表をもとに昼夜問わず一人ひとりの排泄リズムを把握し個々に合わせた声掛けの仕方について職員間で留意している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日乳製品や食物繊維が摂れるよう献立を立てている。便秘の続く方には、下剤や水分、乳製品の追加、運動不足の解消等に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	各利用者毎に個浴のお湯を張り替えており、感染症防止に努めている。 生活パターンが崩れないよう、また、当日の体調や気分により入浴の声かけをし、各利用者にあった入浴支援に努めている。	利用者毎に個浴のお湯を張り替えており、清潔感や感染症防止に努めている。1日3人のペースで日曜日を除いた曜日にいつでも入浴できる体制にあり、状態に合わせて清拭や入浴日の変更を行う等、柔軟に対応している。またヒヨコの浮き物を入れることで入浴を楽しむ工夫がされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	リビング周辺に個室があり、本人の習慣や体調を配慮し、休みたい時に休んでいただけるようにしている。 巡回を行ない、安心して眠れているかの確認をし、不安があるようなら、やさしく言葉をかけるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報を理解し、状態の観察に努めている。医師等に相談し、粉碎等飲み易い形態にしてもらったり、トロミをつけたりして飲んでいただいている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴の情報を職員間で共有し、出来る事、楽しめる事を考え、実践して頂くようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍にて、家族と外出したり、好きな所への外出等は難しい状況である。 近隣の散歩や散策は、季節のよい時に実施していきたい。	以前は天気の良い日に近隣に散歩に出掛けることもあったが、現在はコロナ禍の為実施できていない。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、自ら直接、何か買い物をして頂く機会はない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状の返事をお手伝いしている。 家族の同意により、オンライン面会を実施している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同で作るちぎり絵のカレンダーや飾りで、季節を感じていただいている。また、太陽光や外の景色を眺めていただいたりしている。	毎月利用者と一緒に作成する季節感を取り入れた壁面の装飾や、カレンダーが掲示してあり居心地の良い空間となっていた。新型コロナ対策で空気清浄機の使用や消毒、こまめな換気に心掛けている。また大きな窓からは広々とした田畑を見ることができ、リフレッシュできる環境となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングダイニングでは、相性のいい方が近くなるよう配慮している。 その周辺に各自の個室があるため、独りになりたい時には、いつでも行けるようになっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には、馴染みの家具や本棚、家族の写真や観音様等、本人が安心される物が置いてある。自宅から持参された寝具には好みの布団カバーを掛けている。 利用者の好み、身体状況等に合わせ、居室内の配置をしている。	居室にはエアコン・クローゼットが配置されており、ベッドについては持ち込みかリースで対応している。テレビや自宅から持ってこられた観音様、使い慣れた家具等は利用者の使いやすさや要望に基づいて配置され、居心地の良さに配慮した居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	世代的に「お手洗」では分かりにくい方もおられ、「便所」と表示を検討している。		

2 目標達成計画

事業所名 ニチイケアセンター石丸 グループホームニチイのほほえみ

作成日： 令和 3 年 4 月 20 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	コロナ禍で、実施が困難な状況であった。	月初めに、利用状況や活動内容を報告する。	活動内容の様子が伝わるような通信誌を、家族や地域の方へ配布していく。	12ヶ月
2	35	年2回の防火訓練を行っていたが、内容をもっと濃くすべきだと考える。	本年度は、地震や水害を想定した訓練も取り入れ、非常時にも正しく判断できることを目標とする。	研修を行いながら、訓練の大切さをスタッフに周知し、消防士からの指導のもと、必要な知識を身につける。	12ヶ月
3	49	コロナ禍にて、面会や外出が難しい状況である。	季節を感じて頂くことの大切さを考え、イベントや会話の中で工夫していく。	天候の良い日は、日光浴や施設の周りの散歩を取り入れる。外出が困難であるため、季節ごとの花を植え、水遣りをして頂き、季節感を感じて頂く。	12ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。